アンケート結果の分析

1.　一人暮らしと実家暮らしの学生についての分析

　Q4の結果を一人暮らしと実家暮らしの学生に分けて考察を行う。すると、一人暮らしの学生で、コロナに関してより不安を感じている3,4,5番を回答した学生が45％となった。また、実家暮らしの学生では29％となった。それぞれを比較すると一人暮らしの学生のほうが16％高く、不安を感じていることが分かった。実家であると親に心配事や悩みを話すことができ精神的に楽になるが一人暮らしだと頼れる人がおらず、全部自分でやらなければならないので不安に感じる学生が増えたと考えられる。これからは一人暮らしの学生に向けて安心できるような情報を発信することができたらよいと思う。

2. コロナの対策についての分析

 Q5の結果より手洗い、うがいをしているとマスクやエチケットを気にしている学生の2つの回答が圧倒的に多くなった。これは質問作成時に予想できており、1番から順に回答数が減っていくと思っていた。その中で5番の回答である不要な外出を控えているが3番目に多く回答されていることに驚いた。このような結果が出た原因としてメディアで多く不要不急の外出自粛のお願いが流れていたからだと思う。また、小池知事が連日、不要不急の外出を控えるようにと発言しており、コロナ対策の定番のセリフになっていると感じた学生も多いのではないかと思う。よって5番の回答が想定より多くなったと考えられる。対策方法について示すときは同じことを何度も言うことによって学生の意識には残るようにすればよいと思う。

3.　フェイクニュースを知る媒体についての分析

　コロナウイルスが流行した初期の段階で、中国でトイレットペッパーが生産されなくなるからトイレットペッパーが不足するというデマ情報がネットから流れた。このデマ情報を信じてしまった日本人の多くがお店で買い占めをして、一時トイレットペーパーが買えない状況となっていた。そこで今回は学生にどこでフェイクニュースの情報を知ったか質問すると46％の学生がtwitterと回答した。やはり学生は普段からSNSを利用しており情報源としていることが分かった。また、twitterに比べると約半分の回答になるが2番目に多い回答はTVとなった。これはSNSを利用していない学生もいて、そのような学生はTVを情報源としているからだと考えられる。ただ、全体の割合から見ると26％しかいなくて今の学生の情報源はスマホの中にあると考えられる。行政としてもこれからネットを利用した情報の発信には力を入れていくべきであると思う。

4.　フェイクニュースへの対応についての分析

　Q9の結果より実際にトイレットペーパーが無くなるというフェイクニュースを知ってから購入しようと思った学生は15％となった。学生は親に日常品を買い置きしてもらっている学生が多い。そのため、ニュースを知った段階ではあまり行動を起こす人は少なかった。しかし、Q10の結果より実際にトイレットペーパーの品切れが起きた後に購入しようとした学生が26％となり、11％増えた。これは実際に周りの人間が購入しているところを見ると集団心理が働き、購入しないといけないと思った学生が増えたからだと考えられる。これから同じようなフェイクニュースが流れたときは、初めの段階で行動を起こす人は少数であるため、早い段階で対応をとり、最小限に被害を抑えることができると良いと思う。

5．まとめ

　すべての質問に対する分析を行って、学生は確かな情報を入手しようという意識がまだまだ低いという風に感じた。情報が自分から調べなくても流れてくる世の中になり、それに慣れてしまった学生は流れてくる情報に対して疑わず鵜呑みにしていると感じられる。

　しかし、このアンケートを通じて学生の意識は改善することができたと思う。なぜならQ6の質問でコロナの情報源として市町村のHPを利用している学生は3.6％だったが最後の質問でこれからの情報源として市町村のHPを利用すると答えた学生が8.2％に増えた。アンケートを通して学生は正しい情報を知る大切さを学び、これからの生活に活かすことができると思うのでアンケートを行って良かったと思う。